

アヒル型ロボット「My Special Aflac Duck」の安全性の確認について

今般、当社はアフラック米国法人の販促品「ドクターダック」の部品（白衣のボタン）に、米国において定められている基準を超える鉛が含まれているものがあることが判明し、日本においても自主回収させていただくことを公表（※）しましたが、米国で開発されたアヒル型ロボット「My Special Aflac Duck」は、日本国内の基準においても玩具としての安全性を確認していますので、ご安心ください。

当社は、小児がん支援の一環として、米国で開発されたアヒル型ロボット「My Special Aflac Duck」を子どもたちの元へ届ける取り組みを行っており、これまでに日本国内において約 300 羽（2020年3月末時点）を小児がんの治療に取り組む病院等に寄贈しています。

「My Special Aflac Duck」については、社団法人日本玩具協会が定めた安全基準を満たすことを第三者機関による検査で確認のうえ、安全面について注意深く作られたおもちゃの証である玩具安全マーク（ST マーク）を取得するなど、子どもたちが安心して触れることができるよう細心の注意を払っておりますので、ご利用中の医療関係者および患児のご家族のみなさまにおかれましては、ご安心いただきますようお願い申し上げます。

（※）「ドクターダック」の自主回収に関する詳細は以下をご覧ください。

URL : <https://www.aflac.co.jp/info/doctorduck2020.pdf>

■ 「My Special Aflac Duck」について

「My Special Aflac Duck」は、治療そのものとどう向き合うかはもちろんのこと、同世代と同じような生活ができないことや、大人に囲まれた入院生活などさまざまな課題を抱える小児がんの子どもたちを応援するために、米国で開発されたアヒル型ロボットです。米国での開発にあたっては、1年以上をかけて100名以上の小児がんの子どもたち、医療関係者や児童心理学者などの専門家とのテストを通じて改良を重ねました。

「My Special Aflac Duck」は子どもたちが自分の感情を伝えるのが難しいときに7枚の気持ちカードを使って子どもたちに代わり感情を表現することができます。また、大人たちもその子がどんな気持ちなのかを理解して、会話のきっかけを作ることができます。

当社は、ペアレンツハウスや奨学金制度の運営のほか、小児がんに関する啓発活動など小児がんの子どもたちとご家族に対する支援に長年取り組んできました。これらの活動に加え、今後も、「My Special Aflac Duck」の提供を通じて、患児たちのさらなるQOL向上にも貢献してまいります。

